

V3.2からV3.3の変更点

- 機能の追加修正
 - 編集画面でプログラムをリアルタイムでチェックするようにしました。構文エラーがある間は画面に薄く色がつきます。
 - 編集画面の標準のフォントサイズを16ptから24ptに変更して大きめの文字が表示されるようにしました。
 - **統計機能**を追加しました。テーブルを利用したデータ集計や統計機能を利用できます。
 - 配列の要素を「a[]1[]読む」の代わりに[]a_1[]の形でも参照できるようにしました。
 - WebAPIオブジェクトを追加しました。
 - Webクライアントの「読む」でポート番号とエンコーディングを指定できるようにしました。
 - ラベルに「変身する」を追加しました。画像ファイルを貼ることができます。
 - GUIオブジェクトを参照すると内部に格納された文字列が返るようにしました。テキストエリアとリストは各行が空白で連結され、選択メニューは選択されている要素が返ります。
 - 音楽のバンドオブジェクトの「作る」でメンバーを指定できるようにしました。
 - テキストファイルに「新規？」を追加しました。ファイルが存在しないことを確認します。
 - テキストファイルで存在ファイルを読んだときに、未定義オブジェクトではなく、空の配列を返すように変更しました。
 - 全オブジェクトに「propnames[]命令を追加しました。オブジェクトに定義されているプロパティ名を配列で返します。
 - 全オブジェクトに「setprop[]命令と「getprop[]命令を追加しました。プロパティを設定したり参照したりできます。
 - ルートオブジェクトに「作る」命令を追加しました。独自のオブジェクトを定義する際に使えます。
 - ルートオブジェクトと配列オブジェクトを参照したときに、内部のプロパティと要素をJSON形式の文字列で返すようにしました。
- 不具合の修正
- 画面に情報を表示したり、プログラムを対話的に操作するためのオブジェクトです。
- プログラムでは、**大きさ**と**位置**でGUIオブジェクトの大きさと位置を指定して使ってください。
- 位置を指定しない場合には、直前に作ったGUIオブジェクトの右隣に配置され、画面の右端を越えたり次の行を実行することで下の行の左端に移動します。ただし、画面の大きさは実行する環境によって異なりますので、できるだけ「大きさ」と「位置」を指定してください。
- GUIオブジェクトの背景色（塗る）は**Mac**では対応していません。
- GUIオブジェクトを参照するとオブジェクト内の文字列が返ります。テキストエリアとリストは行が空白で連結されます。選択メニューは選択されている要素が返ります。
- ラベル、ボタン、選択メニューの文字列中にHTMLを記述できます[][]java版のみ)
 - 記述できるHTMLは、W3CのHTML3.2相当です。ただし[]aタグによるリンクなど、一部の機能は利用できません[]HTMLの意味や文法については、関連する書籍などを参照してください。
 - 文字列の先頭は“ []html[]”で始める必要があります。“ “による引用は記述できません[]は、と記述します。
 - 利用できる主なタグを示します。
 - 本文(body)[]見出し(h1-h6)[]段落(p, br, hr)[]箇条書き(ul, ol, dl, lib)[]表組(table, tr, th, td)[]文字(b, font)[]画像(img)
 - 利用例は付属のサンプルプログラム(html.dtl)をご覧ください。
 - HTMLを用いた画像は、タイトルや図形オブジェクトと重なっても衝突を起こしません。そのため、背景画像の表示に適しています[]imgタグのほか[]bodyタグのbackground属性で繰り返し表示することも可能です。
 - (例) ローカルのlarge.jpgという画像を表示します。

From:

<https://dolittle.eplang.jp/> - プログラミング言語「ドリトル」

Permanent link:

https://dolittle.eplang.jp/release_note330?rev=1578370311

Last update: **2020/01/07 13:11**

